

## 初夏の北海道でお待ちしています

北海道グラビア印刷協同組合  
理事長 若狭 博徳



全国の皆さんこんにちは。あっという間に1月が終わり、2月に突入しました。本年、全国グラビア協同組合連合会（全グラ）の総会が行われます北海道は一年の中で一番寒い時期になっております。1月号の年頭所感では北海道を簡単にご案内いたしました。今月の巻頭言では、6月に皆様がお越しになられる北海道固有の諸問題について、我々の業界に少しリンクさせながら、お越しになられる皆様にご理解いただくことで、これまでの北海道の見え方が変わってくるかもしれません。

昨年も様々な出来事がございました。大昔に私が関東圏に居た時のことですが、基本的にグラビアの業界というものは不況に強い業界であると先輩に言われたことがあります（今思えば我慢強い業界?）。しかしながら、北海道においてグラビア印刷を生業としていた企業は既に15、16社程が何某かの理由で事業を停止していると伺いました。今は13社の正会員にて、北海道グラビア印刷協同組合（道グラ）は運営されております。

北海道の人口は最高で570万人居ましたが、今は500万人余りです。そして予測値ですが、25年後には380万人になると言われております。そのうち札幌圏への集中化が進み、地方都市は現在の半分以下になると言われております。

北海道の産業は1次産業から観光業や半導体産業等へ移行し、資本力を生かし北海道産業の中核の一部となるのかもしれませんが、1次産業は将来どのようになっているのでしょうか？ 1次産業の衰退はその先の加工事業者やそこへの納入業者においても事業の縮小は避けられません。消費人口の減少や食に関係する事業者の減少は、我々業界においても死活問題であります。流石にこの人口減少度合いでの影響は計り知れなく大きなものであると思いますし、正直なところその未来に受けるであろう影響を想像することは計り知れないものがあります故、未経験の事案への対応を考慮するにしても難しさがあります。

北海道では本年大手のD社が北海道から撤退されます。市場の拡大は見込めない点と市場価格の低さを熟慮された結果なののでしょうか？ 今日より更にシュリンク

する未来の市場規模は我々の事業拡大を拒み、経営環境は一層厳しいものになることでしょう。我々はその対応を急がなくてはなりません。

昨年、全グラの田口 薫会長はフルコスト主義を提唱されました。我々の生産物であるフィルムにおいてしっかり原価を算定し、然るべきプライスにて販売することは当然のことです。

その掛かるコストについては地域性があることを皆さんご理解をされていることと思います。しかしながらその全貌となりますと、到底理解が得られないことも沢山あります。

皆さんが総会にてお越しになられる季節は年間で一番良い季節になります。しかし、2月は一番厳しい季節です。我々北海道での住宅や会社（企業）の建物などにおいて厳しい環境から人、家屋、物を守るために様々な工夫を施しております。

凍上…皆さんご存じですか？ 冬に土中の水分が凍結し体積膨張によりその上にある建物基礎ごと持ち上げてしまい、ひびが入ってしまったり割れたり…。建物の上に積もった雪の重みに耐えなくてはならないことから丈夫な柱と梁が必須となり、必然と建造物は高価なものとなります。当然ながら、その維持管理や修繕に掛かるコストも自ずと高価なものとなります。厳寒期における暖房のコストのみならず、断熱性の向上、夏場も以前と違い35℃以上になる日数が増え、また湿度も高いことから生産環境の整備は必然となり、これまでにないコストが必要となりました。もっと細かいことを言い出したらキリがありません。

北海道固有のコストのお話ですが、全国にはまた違った我々の知りえないコストもあることでしょう。掛かった費用は全て価格へ反映することが可能でしたら言うことはありません。海外でのサービスとはタダのことではなく、価格に反映される労働の対価という価値観の社会を目指さなくてはならないと思います。

もう少しだけ言わせていただければ、人を使う、動かす、依頼するということ全てにおいて、それはコストであるということ。製品の在庫依頼を受けた場合、取適法としては保管料を請求しなくてはならない。しかしながら、公正取引委員会としては業界が団結して推し進めることはNGのようです。個別案件として各社がカスタマーと個別交渉しなくてはならないわけで、各社の自己努力の限界とそこを突くライバル企業が下を潜るように好条件を提示した場合、回避の術はあるのでしょうか？ なんと中途半端な法律にしか私には見えません。この法律の趣旨を理解し徹底させるためには何が必要なのか？

法令を遵守できていなければ、罰則規定や罰金等、行政がしっかりと対応いた

だくことができれば、日本国における昭和の時代のサービス概念から新しい時代のサービスへと価値観が変わるきっかけとなり、企業の収益性向上が実現すれば政府が提唱する賃上げも可能になるのではないかと。肝心なのは実質賃金の上昇ではありませんが。

昨年の夏、家族を連れ米国のNYとワシントンD.Cへ旅行しました。小学生の愚息にNYマンハッタンの熱量を、ワシントンでは歴史を体感させるためでした。その点は良かったのですが、大変であったことはその食事です。ランチにて私とカミさん（神さんとも呼ぶ）はデリにて1個5ドルもする小さなおにぎりを食し、息子はどうしてもバーガーが食べたいと…、価格はポテトとドリンク付き27ドル前後。なんとも高級なランチである。物価の違いを痛烈に感じたランチとディナーでの出来事です。

それに比較して日本は安くて良いなんて言うておれません。我々日本人の労働対価が下がるに下がったことを意味しているわけです。昭和の時代から安いは美德のごとく、競争社会も誰が一番単価を下げるができるのか的競争を繰り広げておりました。我々の業界もその最たる業界ではなかったでしょうか？ そのツケが災いした結果、消えていったあの企業、この企業を皆さん憶えておられますか？

我々の業界は食のインフラを担う産業でありながら、また身近に存在しているにも関わらず、ほとんど認識されておられません。それにも関わらず、海洋汚染等の問題だけがクローズアップされます。昨年、札幌商工会議所所属会員企業の社長十数名が某ナイロン、シュリンクフィルム製造ラインを見学されました。生活に密着しているフィルムがこのように造られていることを知り、巨大な製造ラインにほとんど人が関与していないのを見て皆さんが感じられたこととは。それは最終商品のコストを考慮すると、我々の産業は既に限界領域なのではないかとの意見もありました。環境問題の取り上げ方にも疑問が残るとの意見がありました。少しは包装業界のPRになったかなと思いつつ、我々の業界として社会にもっとPRしなくてはならない、<sup>いかなる</sup>所請あるべき姿を考えさせられることとなりました。

現在、道グラは社会活動の一環として、すすきのグリーンオーシャンプロジェクトへの参加を検討しております。海洋プラゴミの約8割が街から流出するごみと言われ、ごみの連鎖を止めることで生態系への影響を最小限にしたいとの思いから、プラスチック産業である我々も社会貢献の一環として参加することに意義があるのではと、検討を始めたところです。

環境問題へのアプローチの仕方も時代とともにダイオキシン等様々な課題が課せ

られ、また解決して参りました。今言われる海洋ゴミは、我々プラスチック産業が悪いのではありません。それをどのように扱うのか？ それをきちんと分別して燃るべきところへ廃棄等の処理が行われているのか等、利用者側のモラルによるところが重要な課題であると思います。我々道グラはささやかではありますが、これまでと違った角度からの環境 PR アプローチを試してみようかと考えております。

昨年も色々な事が起こりました。高市内閣は初の女性による内閣総理大臣の誕生、自公連立解消から自民維新連立誕生へ。全国的な熊騒動、米不足からの価格高騰、関西万博、異常気象にいつ起こるか分からない地震等、話題は尽きませんでした。本年はより良い幸福感に溢れる年になることを期待したいです。

浅学菲才の私がここで述べるのは憚られるところではありますが、私個人の思いといたしましては6月に全グラの総会にて皆様をお迎えすることです。総会では白熱する程の議論がなされ、続く懇親会では北海道の食材を美味しく堪能いただけるものと思います。札幌グランドホテルは皆さんご存じの三国シェフが居られた名店です。翌日のゴルフや観光にも嗜好を凝らし、きっと皆様に喜んでいただけることと思っております。他にもお花等のイベントやYOSAKOIソーラン祭り、グルメに近郊のワイナリーと酒蔵等、その楽しみ方は多岐にわたります。皆様におかれましては体調を万全にされ、素晴らしき初夏の北海道を堪能いただきたく思っております。

最後に、総会もしくは懇親会の場にて私がお挨拶をすることになると思います。大方いつも話が長いと言われ、緊張も相まって思いが中々伝わらないというジレンマに襲われます。この場をお借りして紙面にて思いをお伝えさせていただき、皆様を6月にお迎えしたいと思います。故に壇上での私のお話は記録的に短いご挨拶と考えておりますので悪しからず。

少々先のことでありますが、皆さんお待ちしております!!

## 全国グラビア協同組合連合会 定例理事会

# 全グラ総会、飛行機とホテルの予約は早めに

全国グラビア協同組合連合会は、2026年1月16日(金)午後12時50分～3時まで、東京・ホテルニューオータニ「LAPIS」において、理事21名と顧問2名出席のもと、田口薫会長が議長を務め、下田幸二専務理事の司会進行で理事会を開催した。

田口会長の挨拶に続き、出席理事から近況報告が行われた。6月11日(木)、12日(金)に北海道で開催される全グラ総会については、11日は夕方から総会を開始、12日は観光・ゴルフを予定。観光は博物館、大倉山のスキージャンプ台見学などを予定とのこと。なお、11日は2026年・第35回YOSAKOIソーラン祭りの開催(6月10日～14日)と重なるため飛行機、ホテルの予約が厳しい状況のため早めの手配をお願いしたいとのコメントがあった。

下田専務理事からは理事会終了後に開催される全グラ新年会、1月7日開催(一社)日本印刷産業連合会の新年賀詞交歓会、1月8日開催の東京都中小企業団体中央会の新年賀詞交歓会、昨年12月に行われたラミネート・スリット・製袋の特定技能職種指定に向けた日本ポリエチレン製品工業会との打ち合わせ、経済産業省と日印産連とのハイレベル面談などについて報告があった。山下雅稔理事から日印産連GP推進部会の活動状況について、安永研二副理事長、吉原宗彦理事から「印刷産業環境ビジョン2050 2030年中間目標(用語解説付き)」について、「外国人技能実習評価試験」実績などについては都築晋平顧問から、取適法については安永副理事長から説明があった。

### 出席理事・顧問

田口薫会長(関東グラビア協組、大日本パッケージ㈱)	佐伯陽子理事(埼玉県グラビア協組、㈱佐伯紙工所)
安永研二副理事長(関東グラビア協組、東包印刷㈱)	東勇一理事(埼玉県グラビア協組、㈱トーショー)
高桑真樹副理事長(関西グラビア協組、㈱ダイドー)	浮田信也理事(東海グラビア印刷協組、大和産業㈱)
若狭博徳副理事長(北海道グラビア印刷協組、㈱北海サンコー)	賀谷壮佑理事(北陸グラビア協組、賀谷ゼロファン㈱)
杉山真一郎副理事長(東海グラビア印刷協組、富士特殊紙業㈱)	織田憲三理事(北陸グラビア協組、アートパックス㈱)
母里圭太郎副理事長(九州グラビア協組、㈱平野屋物産)	奥田拓己理事(関西グラビア協組、㈱北四国グラビア印刷)
大野寿之理事(北海道グラビア印刷協組、極東高分子㈱)	田中规貴理事(関西グラビア協組、淀川加工印刷㈱)
山下雅稔理事(関東グラビア協組、㈱巧芸社)	中村政晃理事(九州グラビア協組、㈱三裕商会)
吉原宗彦理事(関東グラビア協組、東京加工紙㈱)	下田幸二専務理事(全国グラビア協同組合連合会)
川田雄治理事(関東グラビア協組、トーホー加工㈱)	都築晋平顧問(全国グラビア協同組合連合会)
大月祐樹理事(関東プラスチック印刷協組、㈱セイユウ)	松本太顧問(全国グラビア協同組合連合会)
市村清一理事(埼玉県グラビア協組、㈱ダイトー)	

# GP JAPAN

全グラ情報

2026年2月号 No.303 全国グラビア協同組合連合会

## 今月の表紙



写真上段左：全グラ、関東グラビア、関東プラスチックの賀詞交歓会、右：中国TIDEのオープンハウスの様子、下段左：埼玉県グラビア協組の新年会、右：関西グラビア協組の新年会

## CONTENTS

**巻頭言 初夏の北海道でお待ちしています** ..... ①  
北海道グラビア印刷協同組合 理事長 若狭博徳

### 全グラ

全国グラビア協同組合連合会 定例理事会：  
全グラ総会、飛行機とホテルの予約は早めに ..... ⑤  
全グラ・関グラ協組・関プラ協組：タコつぼから脱却、協働で業界を活性化。  
2026年新年賀詞交歓会を開催 ..... ⑧  
東京都中小企業団体中央会：令和8年新年賀詞交歓会開催報告 ..... ⑭  
報告者：全国グラビア協同組合連合会 専務理事 下田幸二

### 組合員・単組の近況

埼玉県グラビア協同組合：令和8年新年会を開催 ..... ⑬  
関西グラビア協同組合：新年賀詞交歓会を開催 ..... ⑭

### 中国レポート ..... ⑰

進む自動化・省人化、日中共同開発中のグラビア印刷機も  
中国TIDEの軟包装スマートファクトリー

### JFPI ..... ⑳

日本印刷産業連合会：2026年新年交歓会開催報告  
報告者：全国グラビア協同組合連合会 専務理事 下田幸二

酒は永遠の友 vol.13 田口 薫 .....	28
Data Watch 2025年10月データ .....	30
紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2025年11月...	36
GP工場認定制度無料説明会のご案内 .....	40
GP認定制度申請についてのお願い .....	42
官公庁 Information .....	44
総務省・経済産業省	
「令和8年経済センサス-活動調査」調査の実施、回答のお願い	
Information	
賀谷ゼロファン、東京支店開設 .....	12
サカタインクス、EcoVadis社のサステナビリティ調査で「ブロンズ」評価取得 ...	44

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円+税です。

購読および広告出稿を希望される方は、**全国グラビア協同組合連合会**まで。  
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp



発行：2026年2月10日  
 発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）  
 発行所：全国グラビア協同組合連合会  
           〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9  
           あさひ墨田ビル  
           TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814  
 編集スタッフ：下田幸二（全国グラビア協同組合連合会専務理事）  
                   酒井由香（同）  
 編集協力：(株)加工技術研究会  
 印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2026

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

全グラ・関グラ協組・関プラ協組

## タコつぼから脱却、協働で業界を活性化 2026年新年賀詞交歓会を開催

2026年1月16日（金）午後3時半より、東京・ホテルニューオータニ「麗の間」において、全国グラビア協同組合連合会、関東グラビア協同組合、関東プラスチック印刷協同組合の3団体合同の「2026年新年賀詞交歓会」が開催され、組合員、賛助会員、来賓など約200名が一堂に会した。



田口 薫会長

### 利益確保で設備投資や人材育成、双方向の情報も

冒頭、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長（大日本パッケージ㈱）が次のような挨拶を行った。

「皆様、あけましておめでとうございます。本日は山手線が止まったりして、非常に足元の悪い中をおいでいただきまして、ありがとうございます。

今年は丙午で、生命力にあふれる年とされています。しかし昨年を振り返ると、竹下副会長など若くして亡くなられた仲間や、破産に至った仲間などがいて、決して良い年ではありませんでした。ここには他山の石として様々な教訓が多く含まれていると思います。

私は『フルコスト主義のすすめ』という文書をインキメーカーさんに無理を言ってあらゆる会社にお配りしてもらいましたが、多くのアウトサイダーには届いていません。一方通行です。これからはSNSも学び、若い人たちや小規模企業にも情報を発信しようと考えています。国の政策や中小企業庁、公正取引委員会の取り組みなど有益な情報は多くありますが、それを知らないまま経営が苦しくなっているケースもあります。

軟包装衛生協議会（軟衛協）に未加入の企業も多く、同じ業界で事故が起きたらどうするのか、大きな不安があります。実際、軟衛協は厚労省からも



高く評価され、資料提供を求められるほどの存在です。私たちの工場はかつてどうだったか。トタン張りで、お客様から厳しい指摘を受け、恥ずかしい思いをしました。その後、石油パニックの中で組合の情報や助言を得て利益を確保し、軟衛協の仕組みに沿った工場を建てることができました。

印刷機械は年間 15 ～ 20 台しか売れません。車は 10 年で買い替えるのに印刷機は 30 年、40 年。おそらく半数以上がこうした状態です。ただ、買い替えるにも機械は高額で大型です。そのうち外国製が入ってきてしまいます。そうならないように、機械メーカーさんには部品の共通化やコスト、小型化などについても考えていただきたい。

我々はタコつぼから早く抜け出して、設備が老朽化しているなら、正直に価格改定をお願いする勇気も必要です。実際、大手企業は設備更新を理由に価格改定を行っています。中小企業も同じ発想を持たなければ事業は続きません。

海外大手は利益率 10%。利益が出なければ撤退します。彼らの基準で製造を求められたら、どうなるのか。マーケットインでやってきたはずなのに、利益が出ない。サプライチェーンが途絶えることがあり得ることを頭に入れてお客様に要望してください。そして、一定の利益を確保して、設備投資や人を雇用してください。

タコつぼから抜け出し、来年も再来年もここに一堂に会する。そして、共同開発のような発想で業界を盛り上げていただきたいと思います」



海江田万里氏

## 企業の変化と成長を後押し

来賓祝辞には衆議院議員の海江田万里氏が登壇。

「今年が大きな変化の年であることは、もはや否定できない事実です。こうした変化の時代に生き残る企業とは強い企業や規模の大きな企業ではなく、ダーウィンの言葉にあるように、変化に適応できるものこそが生き残るのだと思います。

企業が変化、成長しようとしているときに、それを抑え込むようなことがあってはなりません。企業の挑戦を後押しし、伸ばしていくことこそが、行政の重要な役割です。

私はこれまで経済産業委員会の委員、委員長を務め、現在は財務金融委員会で税制を担当しています。研究開発投資を促進する税制は長年続いてきましたが、実際に活用しているのは大企業が中心。大企業では研究開発専任の人材がいて、その人件費は研究開発費として認められます。一方、中小企業では、現場で働きながら新しい開発に取り組んでいる。それも立派な研究開発ですが、専門でないという理由で対象外とされてきました。こうした中小企業での研究開発も、きちんと税制上認める仕組みが必要です。現場から生まれる

研究開発が利益や売上につながるよう、しっかり取り組んでいきたいと考えています」



経済産業省商務・サービスグループ文化創造産業課クリエイティブ産業室の荻野洋平室長

### 税制支援措置活用で積極的な国内投資を

続いて、経済産業省商務・サービスグループ文化創造産業課クリエイティブ産業室の荻野洋平室長が次のように述べた。

「本年の経済政策における最重要課題は、『賃上げと価格転嫁』と『国内の成長産業への投資』の2点。価格転嫁は昨年9月の「価格交渉促進月間」の調査で、印刷業界のアンケートを実施、真摯な対応によって価格転嫁が実現したという前向きな声も寄せられており、数値も徐々に改善しています。しかし、業種全体で見るとさらなる改善が必要です。印刷業界の皆様は発注側であると同時に、受注側の立場に立つことも多く、サプライチェーン全体に関わる存在です。価格転嫁が実現してこ

そ、次の成長につながると考えています。

投資については、国内への投資をいかに促進していくかが重要な課題です。印刷業界は、地域に根ざした産業であると同時に、異業種への挑戦にも積極的に取り組まれています。こうした取り組みは、地域経済を支えるだけでなく、地域課題、さらには日本全体の産業課題の解決にも貢献するもので、非常に重要な役割を担っています。

成長戦略の一環として、設備投資減税などの税制措置が検討されています。今後の議論を経て成立した際には、こうした支援措置を活用しながら、ぜひ国内での積極的な投資を進めていただきたいと考えています」



印刷インキ工業会の上野吉昭会長

### 業界連携で知恵を出し合いながら前進

最後に関連業界を代表して、印刷インキ工業会の上野吉昭会長（サカタインクス株）が祝辞を述べた。

「私が常に強く感じているのは、印刷インキ業界とグラビア印刷業界の関係が単なる供給者と使用者の関係ではなく、車の両輪のように強く連携し、日々伴走するパートナーとして品質向上に努めている点です。特に大きなテーマとなっているのは、環境対応やサステナビリティで社会的な要求も高まりとともに、業界全体にとっても重要な課題です。

今年は業界の真価が問われる年になると考えています。当工業会としても、環境配慮型インキの開発・普及や、製品のライフサイクル全体を通じた環境負荷低減に取り組み、グ

ラビア印刷業界の皆様と歩調を合わせながら、持続可能な産業づくりに貢献してきています。

一方で、人材確保・育成の課題も避けて通れません。全国グラビア協同組合連合会の皆様が進められている外国人技能実習制度は、技術の継承や国際的な人材の育成交流の観点からも非常に意義深いものです。印刷インキ業界でも、人材確保と育成は共通の課題です。今後は、両業界で人を育て、人が定着する環境を共に築いていきたいと考えています。

2026年を見据えると、環境対応、人材、取引の適正化、サプライチェーン全体の信頼性向上など、業界として取り組む課題は一層明確になっています。こうした時代だからこそ、業界が連携し、知恵を出し合いながら前進することが重要です。当工業会としても、引き続き皆様と力を合わせて取り組んでまいります」



関東グラビア協組青年部の原卓実部長

### 取適法を価格転嫁と賃上げのチャンスに

司会の関東グラビア協同組合青年部の原卓実部長（三洋グラビア株）より、内閣府特命担当大臣の黄川田仁志衆議院議員や（一社）日本印刷産業連合会（日印産連）、スクリーングラフィックソリューションズ株、artience株、商工中金等、多数寄せられた祝電の紹介に続いて、日印産連の緒方宏俊専務理事の乾杯の発声で歓談に入った。



日印産連の緒方宏俊専務理事

「本年1月1日から、下請法が通称『取適法』に改正されました。改正の目的は、中小企業が賃上げの原資を確保できるようにすることです。グラビア業界においては、原材料や労務費の価格転嫁だけでなく、過剰品質や商慣習の見直しなども非常に重要です。また、皆様が熱心に取り組んでいる環境配慮や安全衛生の活動の価値を、クライアントに認めていただき、その対価を価格に反映させることも大切です。今回の改正をチャンスと捉え、ぜひ積極的に発注元と協議し、交渉を行っていただきたいと思います。日印産連としても統計データや業界情勢の分析など、交渉の材料を整備しています。今後とも、ご指導・ご支援のほどよろしくお願いいたします」

### 業界発展と次世代継承に向けて

和やかな歓談が続く中、全グラ8単組の理事長が登壇し、代表して関西グラビア協組の高桑真樹理事長（株ガイドー）が中締め言葉を述べ、三本締めをもって午後5時、盛会のうちに終了となった。

「昨年秋、自称“関西のドン”こと、竹下晋司関西グラビア前理事長のご逝去がありました。すごく豪快な方で、みんなを引っ張っていただき、どんな困難に直面してもビクともしないような方でしたが、病には勝てず。でも、この業界のこと、我々のことを一番に愛していただき、気にかけていただいていた。ここに改めて哀悼の意を表したいと思います。我々を取り巻く環境も非常に厳しい状況が続いていますが、全国の皆様と共に協力、知恵を出し合いながら、そして本日のように笑顔で語り合いながら、業界全体を引っ張っていききたい、そして次の世代の方たちへの継承をしていけたらと思っています。微力ではございますが、業界発展のためにその一役を担って誠心誠意頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします」



中締めを務めた関西グラビア協組の高桑真樹理事長と単組の理事長ら

## i Information

### 賀谷ゼロファン、東京支店を開設

賀谷ゼロファン(株)は、2026年1月5日に、東京支店を開設し、業務を開始した。住所は右記の通り。

〒101-0053  
東京都千代田区神田美土代町 11-12  
二チヨビル6階

# 組合員・単組の近況

埼玉県グラビア協同組合

## 令和8年新年会を開催

2026年1月23日（金）午後5時より、東京・ホテルメトロポリタン「ヴィーナス」において埼玉県グラビア協同組合（市村清一理事長、(株)ダイトー）新年会を開催しました。

司会者の青野事務局長が開会を宣し、市村理事長が挨拶をしました。

引き続き、大日精化工業(株)の齋藤営業統括部担当部長が挨拶した後、東洋インキ(株)の辻リキッドインキ営業本部営業2部部長の乾杯の挨拶で始まり、サカタインクス(株)の木次グラビアパッケージ事業部東京営業部長の締め挨拶で終わりました。久しぶりの宴ということもあり、和やかに時は過ぎました。

今後の組合活動がさらに活発なものになることを期待し、新年会を終了しました。



埼玉県グラビア協組の  
市村理事長



大日精化工業の  
齋藤営業統括部担当部長



東洋インキの  
辻リキッドインキ  
営業本部営業2部部長



サカタインクスの  
木次グラビアパッケージ  
事業部東京営業部長



# 組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合

## 新年賀詞交歓会を開催

関西グラビア協同組合（高桑真樹理事長、(株)ガイドー）は、2026年1月23日（金）午後6時より、大阪市北区のヒルトン大阪「金の間」において新年賀詞交歓会を開催しました。当日は、多くの会員企業の皆様に加え、日頃よりお世話になっている関係機関からご来賓の方々をお迎えし、総勢138名にご出席いただきました。



司会進行は米谷郁彦理事



関西グラビア協組の  
高桑真樹理事長

開宴にあたり、米谷郁彦青年部理事（芳生グラビア印刷(株)）の司会進行のもと、高桑真樹理事長が登壇し、ご来賓の皆様のご臨席並びに多数の組合員・賛助会員のご参加に対し謝意を述べられました。また、「当組合にとりまして昨年は、竹下前理事長、そして新酒前理事という、現役でご尽力いただいていたお二方を相次いでご逝去により失うという、誠に悲しい一年となりました。お二人は長年にわたり関西グラビア協同組合の発展に多大なる貢献をされ、組合を力強く牽引してこられました。ここに改めて、そのご功績に深甚なる哀悼の意を表します。また、本日衆議院が解散され、社会情勢は一層不透明さを増し、今年も厳しい局面が続くことが予想されます。しかしながら、このような時だからこそ、私たちは足元を見つめ直し、ものづくりの原点である現場を大切にし、関西らしい明るさと前向きさをもって本年が実り多き一年となりますよう、皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます」と挨拶されました。

続いて来賓者の近畿経済産業局 サービス・コンテンツ産業室室長の遠藤浩規様、大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課課長補佐の中本勝利様より祝辞を賜り、賛助会員を代表して東洋インキ(株)取締役営業統括兼パッケージ事業責任の小宮洋一様の乾杯のご発声により宴会が始まりました。



賛助会員を代表して  
東洋インキの  
小宮洋一取締役が挨拶



新規加入挨拶をする  
ユニードパックの  
永森 篤常務取締役



賛助会員を代表して  
大日精化工業の四方真祐  
統括部長による挨拶



突然のご指名で万歳三唱  
マイスター吉田会員が  
再び登壇



関西グラビア協組の奥田拓己副理事長の中締め挨拶と三本締め

途中、今期新たに組合へ加入されたユニードパック(株)常務取締役の永森 篤様より加入の挨拶があり、会場では2時間にわたり食事と歓談が和やかに繰り広げられました。

終盤にはインキメーカー各社が登壇し、代表して大日精化工業(株)グラビアインキ事業部営業統括部統括部長の四方真祐様が挨拶された後、突然の指名で登壇した吉田貴亮青年部副部長（新生紙化工業(株)）による関西グラビア流万歳を、参加者全員で声高らかに三唱しました。司会の米谷青年部理事が「場が締めりましたが、真の中締めはこれからです」と場を和ませる一言を添えると、会場は笑いに包まれました。

最後は、親組合および青年部の役員が登壇し、代表して奥田拓己副理事長（(株)北四国グラビア印刷）による中締めの挨拶と三本締めをもって、午後8時、和やかな雰囲気の中で閉宴となりました。

懇親会 snapshot



# 中国レポート

進む自動化・省人化、日中共同開発中のグラビア印刷機も

## 中国 TIDE の軟包装スマートファクトリー

2025年11月11日から14日にかけて、中国・浙江省徳清経済発展区に新設されたスリッター・リワインダーメーカー TIDE の新工場 TAiREC および、浙江省嘉興市に拠点を構えるコンバーター嘉興星越包装材料を訪問した。TAiREC では、日本企業の総武機械、ダックエンジニアリング (DAC)、VISCON JAPAN と連携して開発を進めるグラビア印刷機に加え、原反搬送から印刷、スリット、検査、製袋、梱包までを一貫して自動化する、軟包装向けのスマートファクトリーの構想が披露された。12日のオープンハウスには、中国国内に加え欧州や日本から400名を超える業界関係者が来場した。

### 次世代グラビア印刷機、AGV、ロボットが活躍する軟包装工場

11月11日、日本から約4時間で中国・杭州蕭山国際空港に到着。杭州は、“中国のシリコンバレー”とも言われるほどデジタル産業の発展が目覚ましい地域で、中国最大級のEC・IT企業 Alibaba Group (アリババ) や AI スタートアップの Deep Seek (深度求索) など多くの新興企業が集まる経済都市だ。そんな地域に今回の新工場 TAiREC がある。日本から視察に参加した一行は、12日のオープンハウスより一足先に新工場を訪問させてもらった。

入口付近には総武機械と TIDE、DAC が共同開発中の10色グラビア

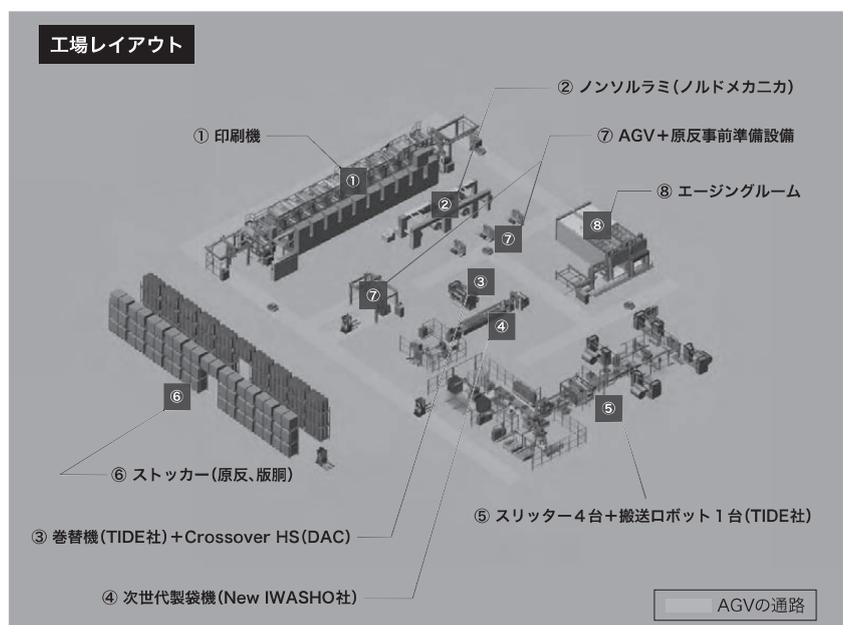


図 工場レイアウト

出所：ダックエンジニアリング資料



新開発のグラビア 10 色印刷機

表 主な仕様

色数	10色ストレート
基材	一般プラスチック
基材幅	Max.1,250mm
機械速度	Max.400m/min
印刷周長	400～942mm
原反径	Max. φ 800mm
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高剛性ドクター構造</li> <li>・圧胴 2 腕構造</li> <li>・ファニツシャロール機構付き</li> <li>・最終ユニット延長乾燥器付き</li> <li>・運転管理レシビ機能搭載</li> </ul>

印刷が設置されていた。印刷機的主要仕様は表の通りで、印刷デモは行われなかったものの、最大 400m/min での高速フィルム搬送を実演していた。原反の供給・排出装置は印刷機と連動し、AGV（無人搬送車）で運ばれてきた原反を無人フォークリフトが受け取り、原反径を自動計測して印刷機へセットされる。印刷後の原反も同様に次工程へ自動搬送される。

同機の特長の 1 つとして、DAC が開発した印刷検査システム「AUMATCH」の初搭載がある。見当、色濃度、ドットゲイ



無人フォークリフトで原反を受け取り、印刷機にセット



印刷機に設置された DAC の AUMATCH（右）と VISCON JAPAN の粘度コントローラー

ン、ドット形状を同時に計測できるシステムで、独自開発の「田」の字マーク（特許出願中）をカメラで読み取り、各種データを可視化する。さらに VISCON JAPAN の粘度コントローラーとの連携により、将来的には色濃度の測定結果をもとに粘度補正までを自動化することを想定している。

後工程では、スリッター、巻替検品機、エージングルームへの搬送も AGV によって自動化が可能。エージングルームは最大 24 本、重量 1 トンの原反を保管可能で、



エージングルームを見学する参加者



段ボールを組み立てたり、製品を箱詰めする  
多関節ロボット

紙管は3、6インチに対応する。

完成した袋やフィルムは梱包ラインでフィルム包装、重量計測、ラベル貼付され、多関節ロボットが箱詰めしたり、パレット積みを行っていた。ロボットはTIDE製のロボットハンドが取り付けられており、用途によってハンドの種類を変えることで様々な用途に対応する。

他にも工場内にはNew IWASHOの次世代製袋機「SDN-600」のデモが行われたり、DACの「Crossover HS」やTIDEの各種スリッター、Nordmeccanicaの3層ノンソルラミネーター「Triplex SL 1-Shot」な



New IWASHOの次世代製袋機「SDN-600」



TIDEのスリッター



DACのCrossoverが搭載された巻替検品機



Nordmeccanicaの3層ノンソルラミネーター  
「Triplex SL 1-Shot」

ストッカーには大型ディスプレイが設置。稼働状況、ロール位置、予兆管理などがリアルタイムで可視化



DACの氷上好孝会長（左）と  
TIDEの王建斌総経理

ども展示されていた。

## 日中欧技術共有セミナー&パネルディスカッション

翌12日は午前中から日中欧技術共有セミナーとパネルディスカッション、午後4時頃から場所をTAiRECに移してオープンハウスという盛りだくさんの1日となった。

セミナー冒頭、DAC/New IWASHOの氷上好孝会長が「溶剤臭のない環境で若者にとって未来ある軟包装業界をつくるのが私の夢。その理想に近い考えだったのが王建斌総経理だ。雪山を愛する心と軟包装業界をより良くしたいという共通の思いから交流が深まり、日中協力による世界初の軟包装合理化ラインの発表に至った」、TIDEの王総経理が「複数のスリッターや巻取・巻出設備、自社開発の検査システムを提供し、耐久性と信頼性を追求してきた技術を新ラインに反映した。試行錯誤を重ね、2022年には中国・惠州 Amcor 工場へ最先端ラインを導入し高く評価された。

今後も自動化・スマート化を進め、業界の未来を切り拓きたい」と語った。

## TAiREC 高灵杰 CTO



高灵杰 CTO

高灵杰 CTO は、「バーコードスキャナーやRFIDを活用して全工程を統合、従来サイロ化していた工場データを一体化し、透明性を高める」とし、データプ

ラットフォームやAIモデルの導入によって経験主導型からデータ主導型、最終的にはシステム自身が自律的に判断する「意思決定分析」による生産の実現を目指していた。

## 総武機械 鈴木将仁社長



鈴木将仁社長

人手不足と小ロット対策を目的に工程短縮を狙った複合機として、UV硬化装置搭載のグラビアコーティングと印刷を併用した複合機、ラミネート前のプリ

コートを加え4工程を1工程に集約した複合機、フレキソ、グラビア、製袋機を統合した複合機などのオリジナル機種を紹介。鈴木将仁社長は、今回の共同開発を契機に、「中国市場のニーズを把握して、環境配慮やオートメーション機能搭載など時代に合わせた機械を製造して、軟包装業界や事業の発展に貢献したい」と語った。

## Nordmeccanica Machinery Shanghai Giorgio Negri 氏



Giorgio Negri 氏

最新モデルの3層ノンソルラミネーター「Triplex SL 1-Shot」や、塗布量管理装置「CWM」、無溶剤洗浄装置「Cleaner SL」を紹介。Triplex SL 1-Shot はイタリアで設計、中国で生産を行う機種で、従来2段階で行っていたPET/AL/PEのラミネート工程を1回で完了できる。2つのコーティングユニットを装備。特許を取得した5本ローラー方式の塗工技術により、コーティングローラーと転移ゴムローラーのギャップを約1 $\mu\text{m}$ に調整し接着剤の均一塗布と接着強度の安定、接着剤使用量の削減を実現する。

## DAC 高城清次社長



高城清次社長

高城清次社長は、 $\Delta E$ 計測表示機能、AI超解像技術、デュアルモニター「PlusM」、デザインデータとの刷り出し検査、製品切り替え時のロスを極限まで削減した2タッチオペレーションなど、多くの特長を備えるグラビア印刷検査装置「Crossover HS」を紹介。また、氷上会長からは新開発のAUMATCHについて、「色濃度、見当、ドットゲインを計測してグラビア印刷機を全自動で印刷できるよう

にしたいと思い開発した」との説明があり、粘度コントローラーとの連携による濃度補正の自動化にも取り組んでいるとのことだった。

## New IWASHO 福永 聡課長



福永 聡氏

次世代製袋機「SDN-600」に搭載された、DACと共同開発の各種自動化装置を紹介。シールバー等の自動移動システム「POSIMO」は、従来オペレーターが手動で行っていた位置決め・調整作業を全自動化し、段取り替え時間短縮とスキルレス化を実現。蛇行ピッチ制御装置「GDP-T」は、エリアカメラでラインやエッジ、印刷図柄を監視し、フィルムのズレに応じてゴムローラーを傾けて蛇行・ピッチ・テンションを制御する。DAC製オンライン検査装置「Preinity Coco!」は異物・汚れ・印刷不良を検出し、集積装置と連動することで不良品を自動排出し、自動化・省力化・生産性向上に寄与すると解説した。

## VISCON JAPAN 松岡 豊社長



松岡 豊社長

粘度コントローラーの故障原因の多くを占める洗浄不足と注油不足を自社特許技術「スマート注油」と「Turbo Wash」により解消した粘度

コントローラーを紹介。さらに、DACのAUMATCHなどの開発製品との連携により、「オペレーターが行っていたオフライン検版を刷り出し時に検版、色合わせをオンラインでできるようになったり、検査装置が取得した色濃度データを粘度制御に反映する高度な色調整が可能になる」と述べた。

## 日中欧パネルディスカッション



陳志雄氏

午後には軟包装業界の現状とトレンドをテーマにしたパネルディスカッションに Amcor China の余昕 CEO、独 TECUMA Systems の Uwe Meyer

CEO、加工技術研究会の荒木茂雄社長が登壇、モデレーターは陳志雄氏が務めた。リサイクル性向上の重要な選択肢の1つであるモノマテリアル、日本の水性グラビアの現状、コンバーターのみならず機械メーカーにも大きなプレッシャーがかかる欧州 PPWR（包装・包装廃棄物規則）、中国国内で深刻な課題となっているラミネート用接着剤の残留物質などについて情報の共有や意見が交わされた。

## カイロ包材、モノマテにも注力、 嘉興星越包装材料

13日には、コンバーターの嘉興星越包装材料（浙江省嘉興市）を訪問した。同社は、4工場15ライン体制で、年間生産能力は約3万2,000トン、年間売上高は約200億円、直近5年間の年平均成長率



左から、加工技術研究会の荒木茂雄社長、Amcor Chinaの余昕CEO、TECUMA SystemsのUwe Meyer CEO



オープンハウス終了後はホテルに戻ってレセプションパーティ

は約20%と高水準を維持する。主力製品は脱酸素剤・乾燥剤包材で、近年はカイロ包材やMDOPEなどモノマテリアル分野にも注力、フィルムの生産も視野に入れているという。同社の毛兵総経理は、脱酸素剤・乾燥剤向け包材で売上が約100億



嘉興星越包装材料

円を占めると説明。また、カイロ包材は日本メーカーにも採用されているとし、現在の売上約 30 億円から近い将来は 100 億円を目指せるのでは、と期待をかける。なお、同社は 2025 年、東京・秋葉原に MoonWood 新フィルム(株)を開設している。

近隣では新工場〔工場面積 6 万 5,000m<sup>2</sup>、生産額年間 80 億円（予定）〕も準備中で、同社 2 台目の独 W&H 製 MDO9 層共押出ブローフィルム製膜ラインの最新バージョンを設置中とのこと。さらに新工場では同機を最大 4 台設置できるスペースを確保、MDOPE やカイロ包材向け通気性フィルムの生産を計画しているようだ。

今回見学した工場（工場面積 1 万 6,500m<sup>2</sup>、生産額年間 87 億円）の 1 階には BOBST の 10 色グラビア印刷機、穿孔機、ドライラミネーターなどが並び、脱酸素剤包装などの印刷が行われていた。乾燥剤・脱酸素剤の包材に欠かせない穿孔技術について、針の密度や形状をユーザー用途ごとに細かく調整しているとの説明があった。なお、この工場はドライラミ専用で、

別工場にはノンソルラミネーターを 13 台設置しているとも話していた。

2 階はラボとサンプルルームが併設されていた。島津製作所製ガスクロマトグラフや NETZSCH 製 DSC、MOCON 製 WVTR 測定器などを保有している。同社 R&D チームは約 35 名、浙江理工大学との共同研究所運営にも取り組んでいると話をしていた。

3 階には TIDE 製スリッターが 18 台、検品機が 20 台並び、その奥に梱包エリアが配置。見学時には作業者がトレーサビリティ用ラベルの貼付、フィルムの包装、段ボール箱詰めといった作業を機械と手作業を組み合わせて行っていた。

見学終了後に水性グラビアやデジタル印刷についても意見交換が行われた。水性インキは性能や生産性の面で油性に追いつけず現在はテスト段階、課題は印刷速度や高いエネルギー負荷であり、近年は蓄熱式脱臭装置の性能も向上し水性化は急務ではないとのことだった。また、デジタル印刷については、「注目しており、現在勉強中。今は顧客の要望があれば外注対応している」と話していた。



毛兵総経理（左）と長島楊一ディレクター

東京都中小企業団体中央会

## 令和 8 年 新年賀詞交歓会 開催報告

報告者：全国グラビア協同組合連合会 専務理事 下田幸二

東京都中小企業団体中央会による「令和 8 年 新年賀詞交歓会」が、1 月 8 日（木）、明治記念館「富士の間」にて開催されました。会場には東京都知事、都議会議員、行政機関、金融機関、各業界団体の代表者など、多方面から多数の来賓が出席され、盛大に新春の慶びを分かち合う場となりました。



式典は国歌斉唱、中小企業団体の歌斉唱より始まり、厳かな雰囲気の中で開会いたしました。続いて、主催者を代表し東京都中小企業団体中央会・會津 健会長より年頭のご挨拶があり、都内中小企業が直面する課題への対応や、組合活動の重要性について言及されました。

その後、長年にわたり組合活動に尽力された方々への叙勲・褒章の報告と記念品贈呈が行われ、受章者へ大きな祝意と温かい拍手が送られました。長年の功績に対する敬意を示す、心の

こもった場面となりました。

その後、小池百合子東京都知事をはじめ、都議会関係者、産業労働局、商工会議所、各経済団体などの来賓より祝辞が寄せられ、中小企業団体への期待や、地域経済を支える組合の役割について述べられました。行政と中小企業団体が連携しながら今後の課題に取り組んでいく姿勢が示される内容でした。



乾杯の発声ののち祝宴に移り、会場内では多様な分野の代表者が活発に交流し、新年のスタート



に相応しい明るい雰囲気が広がりました。参加者同士が今年の活動方針や現場の課題について意見交換を行い、今後の取り組みに向けて意欲を共有できる場となりました。

交歓会には当組合からも代表者が参加し、多くの組合関係者・行政機関の皆様と直接お話しする機会に恵まれました。特に、東京都内の中小企業が取り組む課題や、組合活動における連携の在り方について多くの示唆をいただき、今後の活動に活



かせる有益な情報交換ができました。

また、来賓として出席された小池百合子東京都知事や産業労働局の皆様からは、地域産業を支える中小企業団体への期待が述べられており、印刷・グラビア業界としても、その期待に応えられるよう取り組みを一層強化する必要性を感じました。

当組合といたしましては、今回の交歓会で得たつながりを大切にし、今後も行政・経済団体・各組合と連携しながら、業界の発展に向けて活動を進めてまいりたいと存じます。



日本印刷産業連合会

## 2026 年新年交歓会開催報告

報告者：全国グラビア協同組合連合会 専務理事 下田幸二

（一社）日本印刷産業連合会による「2026 年新年交歓会」が、2026 年 1 月 7 日（水）午後 4 時 30 分より、東京・The Okura Tokyo 1 階「平安の間」にて開催されました。会場には国会議員、経済産業省関係者をはじめ、印刷関連団体・企業の代表者らが多数出席し、新年の門出を祝うにふさわしい催しとなりました。



日印産連の磨会長

尾形美保子様の司会により開会。続いて、日本印刷産業連合会（日印産連）の磨 秀晴会長が年頭の挨拶を述べられ、業界を取り巻く現状や新年に向けた展望について触られました。

来賓祝辞では、経済産業省商務情報政策局商務・サービスグループ商務・サービス政策統括調整官の江澤正名様が登壇。印刷産業を取り巻く政策動向や、産業間連携の重要性について述べられました。同省からはほかに、萩野洋平クリエイティブ産業室長、中村純典課長補佐らも来場しており、行政と業界の連携強化を示す場ともなりました。



日本印刷産業機械工業会の森澤会長

続いて、日本印刷産業機械工業会の森澤彰彦会長の発声により乾杯が行われ、祝宴がスタート。テーブルは業界団体ごとに配置され、名簿には印刷インキ工業会、プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会、日本製紙連合会、全国グラビア製版工業会、全国グラビア協同組合連合会など、多様な関連団体の代表者が並んでいました。和やかな交流の中で、参加者同士が新年の挨拶とともに情報交換を行いました。

## 2026年 新年交歓会

一般社団法人 日本印刷産業連合会



10団体の会長が登場

プログラム終盤には、日印産連の鷹会長はじめ、会員10団体の会長・理事長が登場し、全日本印刷工業組合連合会の瀬田章弘会長より中締め挨拶が行われ、午後6時に閉会となりました。各団体代表者による所感や意欲的な言葉が交わされ、2026年の業界発展に向けた力強いスタート

を切る催しとなりました。

新年交歓会は、印刷産業に関わる幅広い分野の関係者が一堂に会する貴重な機会であり、業界の連携強化と情報共有の場として恒例行事となっています。本年もまた、次代への課題と可能性を共有する有意義な場となりました。

交歓会には当組合からも代表者が参加し、印刷・製版・資材・紙パルプなど、業界を構成する幅広い分野の方々と直接意見交換を行うことができました。特に、環境対応やデジタル化の進展に伴う各団体の取り組みを共有できたことは、当組合にとって今後の活動を進めるうえで有益な情報となりました。



# 酒は永遠の友

vol.13

田口 薫

清酒の中にも古酒というジャンルがあるが、温度によって黒褐色や黄金色へと変化する。今は酒の販売店の冷蔵庫の中で5年、8年貯蔵して販売することもあるが、メーカーの方で10℃など様々な温度で貯蔵しているようだ。自然の温度で、例えば家の縁の下などで寝かせていると色がついてくる。岐阜の酒蔵、達磨正宗は売れ残って忘れていた一升瓶を開けて飲んでみたら琥珀色になっていたことから、古酒に賭けてみようという研究し、今では10年古酒が1升1万円以上。肉料理に合うから、日航のファーストクラスに採用されたようだ。

私が知っているのは大分の「西の関」。大分は麦焼酎王国で、清酒は苦戦していると思うが、この蔵元は古酒、それも20年、30年、40年ものを持っていて、ごくたまに限定販売する。熊本の「美少年」も古酒を持っていると思う。ここの20年古酒はまるで黄金色であったが、買えなかった。その後、事故米の転売等で売上が激減し破産。江戸時代から続き、都内でも一番人気の銘柄は人手に渡り、今は店舗の棚から消えた。あの黄金の古酒はどうなったのだろうか？



宮崎、鹿児島が芋、福岡、大分が麦、佐賀、長崎、熊本は清酒。特に熊本は「菊の城」「通潤」「香露」「瑞鷹」等がある。香露は昔、吟醸酒の神様と言われた野白金一博士が設立した(株)熊本県酒造研究所で作られた「きょうかい9号酵母(熊本酵母)」を使ったフルーティな吟醸。香りの高い今の吟醸タイプは、ここの影響を受けていた。しかし私的にはやや飽きてきて、もう少し米の味やコクを重視してほしいと思うが。人間は勝手なもので、うまい酒にありつくともっとうまい酒とか個性豊かな酒がないかと模索する。

初めて吟醸を経験したのは1990年頃、東京・池袋の「伝魚坊」で出された静岡県大東町の「開運」だった。杜氏は遠く能登から呼び寄せた能登杜氏。これを店主の日和佐省二氏のダミ声で紹介されると、酒造のたたずまいから杜氏や蔵元の心意気まで伝わる。日和佐氏は、山口県出身で学生時代は暴れん坊で手が付けられなかったというが、酒のこだわりは半端でなく、各蔵を訪問し、ズケズケと蔵元に意見を言い、酒の造りを変えさせたり、自分好みの大吟醸の上の真精大吟醸を造らせて店に並べた。100cc、1杯2,000円。2000年頃だからとてつもなく高い。

日和佐氏は奥方が止めるのを聞かず、東京・四ツ谷の豪邸を入手し、庭に趣味の水琴窟を作って真精大吟醸ばかり並べた。しかし、バブルが収まると1人3万円以上も掛かる店は客足が遠のいた。私も1度行ったが、2人で5万~7万円はとて通えず諦めた。まもなく閉店したが、日和佐氏に今の酒業界についての切れ味鋭い啖呵をまた聞いてみたい。

朝日出版社から『旨い酒』という本が出ている。日和佐氏の考え方がよく伝わってくる。

日和佐氏が推奨していたのが、石川の「天狗舞」と「菊姫」で、天狗舞醸造元の車多酒造には真精大吟醸「中三郎」がある。10年前に閉店した東京・新宿の「天狗舞」では中三郎が飲めた。菊姫は同格の「菊理媛」が1升5万円で売られている。大吟醸を十余年、冷温貯蔵したものだが、未だ試飲していない。出るとすぐに売り切れるからだ。

吟醸酒の伝道師もすっかり世代交代してしまったようだが、清酒は世界中が評価しているのに日本の若者がハイボール、酎ハイで我慢しているのは何とも。酒を単に酔うために飲むのは文化的な後退だと思う。

日本人は外国人が評価すると見直す。戦後まもなくのサントリーの「角」がそうだ。日本人は自分に自信がないというか、個性を押し通さず謙虚を美德とし、自己主張する人をあまり高く評価しない。同じ民族でも中国、韓国は自己主張が強い。ベトナム、日本はおとなしい。タイ、ミャンマー、ラオス、インドネシア、ネパール、マレーシアはどうか。



少子高齢化で人手不足の日本は好むと好まざるを問わず、彼らと付き合わざるを得ない。ヨーロッパ人は地続きの隣国と仲良くしたり、喧嘩したり、密接に付き合ってきたので、人種による差別やいろいろな感情が絡み合っている。征服し、征服されるを数千年繰り返している。食べ物の少ない冷涼なコーカサス山脈やスカンジナビアに住んでいたゲルマン民族が大移動し、ドイツ、オランダ、スウェーデンなどを建国した。

日本は古事記等に国譲り神話などがあるが、どこの誰が征服したではなく、自然に納まっていく、ある意味、あいまいな形で決着している。現在の天皇家も戦前に江上波男博士が騎馬民族説でバイカル湖の南から波及した日本人騎馬民族と解明したが、古墳の調査等で詳細は解明されず仕舞いだ。



縄文人と弥生人はDNAで明らかな違いがあり、耳垢が乾いているのが弥生人で日本人全体の70%、湿っているのが縄文人で30%だそうだ。あえて言えば、稲作、鉄器、乗馬、織物等の文化を持ち込んだ渡来人が日本を治めるようになって優れた人たちに縄文人は従ってきたのではないか。また、一神教ではなく多神教であったことで宗教戦争や民族間闘争が少なかった。そういう意味で、今後一緒に仕事をするときには抵抗なく馴染める。その点では欧米より日本人が優れている点ではないか。

外国人は下働きという偏見を捨てて、誰でも公平に接することがこれからの日本人の務めではないか。相手良し、世間良し等の「三方良し」という言葉は外国にはない。江戸時代、石田梅岩の心学の影響を受けた商人の哲学だが、民主主義とは別のアプローチの人間の真のあるべき姿を説き、現在も企業道徳の一環として生き続けている。客を断る店というに変だが、頑固な親父は自分の意に添わぬ客は店に入れたくない。それは誰しもあるが、一般的には何とか受け入れる。しかし、中には断固断る店もある。先の伝魚坊も「うちの酒は高いんだ。金のない客はお断りだ」とはっきり言って、一見の金のなさそうな客を追い払っていた。